

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：14401
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2018～2023
 課題番号：18K03035
 研究課題名（和文）アメリカ合衆国、中国、日本における国境を越える家族の世代間支援とウェルネス

研究課題名（英文）Intergenerational support and wellness among transnational families in the United States, China(Taiwan), and Japan

研究代表者
 星野 和実 (Hoshino, Kazumi)

大阪大学・大学院人文学研究科（外国学専攻、日本学専攻）・招へい研究員

研究者番号：80310613

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：アメリカ合衆国と中国(台湾)での面接調査データ分析の結果、日本からアメリカに移住した日本人、日系人の約半数は日本の家族に老親介護を任せ、国際移動は日本から距離をとる機会と認知され、8次元のウェルネスを肯定的に強化した。一方、老親の国際介護に従事した日本人、日系人は、責任感、ワーク・ライフ・バランス、経済的負担、子や配偶者の家族関係に困難を経験し、8次元のウェルネスに否定的に寄与した。

一方、日本から中国（台湾）に移住した日本人、日系人に国際移動は伝統的な家族規範により、中国（台湾）の義父母と日本の老親のダブル介護への圧迫感として認知された。国際移動は8次元のウェルネスに否定的に関連した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は研究代表者が客員研究員、特別研究員、客員専門研究員を拝命したカリフォルニア大学バークレー校で、同大学の教授陣を海外共同研究者として迎えた、国際長寿社会で顕著な創造性を有する文理融合国際研究である。国際的に活躍する日本人の増加に伴い、海外へ移住した家族（子-成人-老親）には文化アイデンティティや社会文化的文脈が世代間支援と関わるが、日本ではこうした家族研究は開発途上であり、本研究の学術的独自性が顕著である。また、アメリカ合衆国ではウェルネスが有用な多次的概念とされてきたが、日本の実証的研究は未開拓である。以上のことから、本研究成果の高度な国際的、社会的、学術的意義が認められる。

研究成果の概要（英文）：As a result of the semi-structured interview data analyses in the United States and China (Taiwan), international migration to the U.S. gave some Japanese Americans opportunities to take great physical and psychological distances from caregiving for Japanese older parents. They embraced 8 dimensions of wellness, based on individualism. However, other Japanese Americans felt filial responsibility, and difficulties in work family balance, financial costs, and family relationships between children, spouses, and the adults.

On the other hand, international migration to China (Taiwan) was considered as pressure on Japanese Chinese (Japanese Taiwanese) at doubled caregiving for parents-in-law in China (Taiwan) and Japanese older parents due to traditional family norms. International migration to China (Taiwan) also negatively related to 8 dimensions of wellness. In fact, Japanese Chinese (Taiwanese) experienced serious family conflicts under political uncertainty.

研究分野：生涯発達心理学、文化心理学、臨床心理学、公衆衛生学

キーワード：家族の世代間支援 ウェルネス 国際移動 アメリカ合衆国 中国(台湾)

1. 研究開始当初の背景

国際社会で家族のダイバーシティ(多様性)が加速するなかで、家族の世代間支援は国境を越えて行われる。本研究は少子化、労働力の減少、超高齢化といった人口構造の変容や、ダイバーシティ(多様性)の加速化という国際的な人口変化の特徴を反映するアメリカ合衆国、中国及び、日本に焦点をあてる。家族の世代間支援(子-成人-老親)は生涯発達に伴って推移し、子どもと成人期の親の関係では子の成長につれ、成人の親からの身体的サポート、情動的サポート、経済的サポート、心理的サポートが減少し、子から成人の親に対する身体的サポート、情動的サポート、経済的サポート、心理的サポートは増加する。一方で、成人と老親の関係では老親の加齢によって、成人から老親への身体的サポート、情動的サポート、経済的サポート、心理的サポートが増加する。成人と老親間の世代間支援は、特に老親が介護を必要とする際には特段のシフトが発生する。

さらに、家族が他国へ移住する場合、文化、言語、教育制度、保健医療政策等の相違に直面するため、家族の世代間支援のウェルネスが変容する。Hoshino, Tseng, Hikoyeda, & Gallagher-Thompson (2017a)は、中国、日本、ペルーからアメリカ合衆国へ移住した成人に半構造化面接を実施し、文化アイデンティティと世代間関係(子-成人-老親)について尋ねた。成人は、アメリカ合衆国で生まれた子どもとの間で、文化アイデンティティの顕著な相違により葛藤を生じやすく、また日本在住の老親との間でも文化アイデンティティの相違が拡大して、世代間支援に変容が発生することを解明した。Hoshino, Tseng, Hikoyeda, & Gallagher-Thompson (2017b)は、特に老親に介護が必要になった場合に、子-成人-老親で家族の世代間支援に意思決定が求められ、老親が成人に期待する介護に対して、成人がどのように対応し、かつ子どもとの世代間支援と調整するかが問われる分岐点となることを明らかにした。老親の介護に海外在住の成人が応じる際には、(1)母国の老親の介護に通う場合(国際遠距離介護)、(2)母国から老親を成人の移住した国へ呼び寄せて介護を行う場合(海外呼び寄せ介護)が発生する。一方で、海外への移住によって、老親の介護には心理的、経済的サポートのみを提供し、母国在住の他のきょうだいに身体的、情動的サポートを依頼する成人も見られる。合わせて、国による世代間支援をめぐる社会文化的文脈(個人主義と集団主義、生涯発達観、高齢者に対する態度、介護イメージ等)が、家族の世代間支援の意思決定に影響すると言える。このように、海外へ移住した家族には各世代(子ども-成人-老親)の文化アイデンティティの発達や社会文化的文脈が世代間支援と関わりますが、日本では国境を越える家族の世代間支援とウェルネスの関連についての研究は開発途上である。

ウェルネスとは、WHOの健康の定義「単に疾患でないだけでなく、身体的、精神的、社会的に健康である状態」を越えて、広範囲な次元で構成される健康観(WHO, 2015)である。ウェルネスとは、健康とウェルビーイングを目指す意識開発と意思決定の積極的な過程であり、人間的成長と変化のダイナミックなプロセスと定義される(SHCS, 2015)。アメリカ精神保健省はウェルネス・イニシアティブを展開しており、ウェルネスの8次元(Swarbrick, 2006)の学習を通してウェルネス推進のため、いかに日常生活で選択するかを支援している(SAMHSA, 2015)。ウェルネスの8次元は、情緒的、経済的、環境的、社会的、知的、スピリチュアル、身体的、職業的であり(Figure 1: Swarbrick, 2006)、個人を総合的に理解する有用な概念であるが、わが国における実証的研究は未開拓であり、喫緊の課題であると言える。

2. 研究の目的

本研究は、まず第1に、アメリカ合衆国へ移住した日本人、日系アメリカ人に、アメリカ合衆国で半構造化面接を実施し、面接データの内容分析から家族の世代間支援(子-成人-老親)とウェルネスの関連や、国際移動と世代間支援、ウェルネスの相互作用を検討する。第2に、中国(台湾)へ移住した日本人、日系中国人(日系台湾人)に対して、中国(台湾)で半構造化面接調査を行い、面接データの質的分析から検討する。第3に、アメリカ合衆国に移住した日本人、日系アメリカ人と中国(台湾)に移住した日本人、日系中国人(日系台湾人)について、家族の世代間支援(子-成人-老親)とウェルネスの共通性と差異性を解明する。第4に、子-成人-老親関係の世代間支援とウェルネスの関連を解明するとともに、国際移動と世代間支援やウェルネスとの相互作用を検討する。第5に、国際介護の課題を改善し、国際介護者のウェルネスを変容するための政策的示唆(policy implications)を提言する。

3. 研究の方法

(1) 本研究では、半構造化面接の面接項目からなる面接シートとデモグラフィック変数を聞く質問紙の英語版と日本語版を作成し、最初に大学の研究倫理審査委員会で、研究計画について研究倫理の審査を受け承認を得た。

(2) アメリカ合衆国へ移住した日本人、日系アメリカ人に、アメリカ合衆国で半構造化面接を実施した。また、中国(台湾)へ移住した日本人、日系中国人(日系台湾人)に対して、中国(台湾)で半構造化面接を行った。面接協力者の募集は、各国の日本人、日系人支援国際交流機関、

日本人、日系人支援 NPO/NGO、日本人、日系人シニア・サービス・センター等の代表に研究協力を依頼し、同意が得られた機関で面接協力者を募集した。面接は面接協力者の自宅等を訪問して実施し、訪問面接が困難な場合には大学の面接室等の個人情報保護される環境で行った。

(3) 各年度にカリフォルニア大学バークレー校から海外研究協力者を日本へ招き、研究成果公開の国際シンポジウムを主催したり、オンラインで国際シンポジウムを企画、運営した (COVID-19 により中止した 2020 年度を除く)。

(4) データ分析と国際シンポジウムでの討論により多角的に検討した考察を基盤にして、本研究に顕著に貢献されたカリフォルニア大学バークレー校の教授陣や国立台湾大学の教授等の論文も合わせて、国際誌上で英語の特集号を出版した。

4. 研究成果

(1) データ分析の結果、日本からアメリカ合衆国に移住した日本人、日系アメリカ人の約半数は日本在住の家族に老親介護を任せ、国際移動は日本の老親への介護から物理的距離や心理的距離をとる機会と認知された。一方、日本の老親の国際介護のために定期的に帰国していた日本人、日系アメリカ人は、老親介護の責任感及び、ワーク・ライフ・バランス、経済的コスト、子どもや配偶者との家族関係に困難を経験していた。

(2) 日本在住の家族に老親介護を任せ、日本の老親介護から物理的距離や心理的距離を置いていた日本人や日系アメリカ人は、アメリカ合衆国への移住は個人主義を基盤にして、伝統的な家族主義からの解放と認識することから、8次元のウェルネス (情緒的、環境的、知的、身体的、職業的、社会的、経済的、スピリチュアルの各ウェルネス) を肯定的に強化していた。しかし、日本の老親の国際介護のために定期的に帰国していた日本人にとっては、国際介護は 8次元のウェルネス (情緒的、環境的、知的、身体的、職業的、社会的、経済的、スピリチュアルの各ウェルネス) に否定的に寄与していた。

(3) 一方、日本から中国 (台湾)に移住した日本人、日系台湾人にとって、国際移動は伝統的な家族規範により、中国 (台湾)の義父母と日本の老親のダブル介護へのプレッシャーとして認知されていた。

(4) 国際移動は、中国 (台湾)への移住した日本人、日系中国人 (日系台湾人)の 8次元のウェルネスに否定的に関連しており、政治的不安定という社会文化的文脈のなかで、子ども一配偶者一義父母の間で深刻な家族葛藤を経験していた。

(5) 上記のデータ分析を総合して、国際介護の課題解決と国際介護者のウェルネスの改善のための政策的示唆 (policy implications)を提言する。(1) 国際介護を支える支持的な社会政策と労働政策の必要性。(2) 保健医療政策の改革。(3) 国際介護のためのビザの必要性。(4) 国際介護専門職のダーバシティ (多様性)の拡充。(5) 国際介護のため移住した国での老親への医療保険の必要性。(6) 自然科学、社会科学、人文科学が協働する、国際介護のための Artificial Intelligence (AI)とロボット開発の発展。

(6) 世界各国が新型コロナウイルス政策や渡航禁止・渡航制限等を発令するなかで、国際介護は顕著な影響を受けた。そのため、新型コロナウイルス後のニューノーマルの時代における国際介護に関する政策的示唆 (policy implications)も合わせて提言する。(1) 国際介護の移行 (インフォーマル介護からフォーマル介護)。(2) Zoom 等の ICT (information and communication technology)利用の発展。(3) 国際介護専門職の不足。(4) 健康格差と不平等の強化。(5) マイノリティの経済的格差の拡大。(6) アジア人やアジア系アメリカ人への差別の増加。

(7) 本研究は、研究代表者が客員研究員、特別研究員、客員専門研究員を拝命したカリフォルニア大学バークレー校で、社会福祉学部の Andrew E. Scharlach 教授、公衆衛生学部の Winston Tseng 教授 (医療社会学)を海外共同研究者として迎え、自然科学と社会科学が協働するトランスレーショナル・リサーチであり、国際長寿社会で顕著な創造性を有する学際的国際共同研究である。

(8) グローバルに国際社会で活躍する日本人の増加に伴って、海外へ移住した家族には三世代間関係 (子ども一成人一老親)で、文化アイデンティティの発達や社会文化的文脈が世代間支援と関わるが、わが国では国境を越える家族の世代間支援とウェルネスの関連についての研究は開発途上であり、本研究の学術的独自性が顕著であると言える。また、アメリカ合衆国ではウェルネスが健康を越える概念とされ、教育や保健医療等で推進されてきたが、日本では課題山積である。ウェルネスは、8次元 (情緒的、経済的、環境的、社会的、知的、スピリチュアル、身体的、職業的ウェルネス)から構成されると定義され (Swarbrick, 2006)、個人を総合的に理解する有用な概念であるが、わが国における実証的研究は未開拓であり、喫緊の課題である。以上のこ

とから、本研究成果の高度な国際的、社会的、学術的意義が認められる。

<引用文献>

- Hoshino, K., Tseng, W., Hikoyeda, N., & Gallagher-Thompson, D. (2017a). Cultural identity and intergenerational relationships among Chinese, Japanese, and Peruvian Americans in the United States. In K. Hoshino (Ed.) *International migration and wellness innovation in the United States, Sweden, and Japan* (pp. 21-50). Tokyo: Kazamashobo Press.
- Hoshino, K., Tseng, W., Hikoyeda, N., & Gallagher-Thompson, D. (2017b). Cultural identity and intergenerational support among Asian and Hispanic Americans in the United States. In K. Hoshino (Ed.) *International migration and wellness innovation in the United States, Sweden, and Japan* (pp. 51-80). Tokyo: Kazamashobo Press.
- Hoshino, K. (2018a). Multidisciplinary and Multicultural Support Model for Immigrants on Legal Issues. *Compilation and Documentation on Refugees and Migrants Quarterly*, 10, 6-21.
- Hoshino, K. (2018b). Interventions and educational programs of intergenerational support for diverse families in the United States (The 2018 International Seminar on Intergenerational Support and Wellness in the United States, China, and Japan, School of Medicine, Osaka University, Osaka, Japan).
- Hoshino, K. (2019a). International caregiving for older adults and wellness among Japanese, Chinese, and Peruvian Americans in the United States (The 2019 UC Berkeley International Seminar on Global Aging School of Public Health, The University of California at Berkeley, Berkeley, CA).
- Hoshino, K. (2019b). International caregiving and wellness among Japanese, Chinese, and Peruvian Americans in the United States (The 2019 International Symposium on International Caregiving and Wellness in the United States, and Japan, School of Medicine, Osaka University, Osaka, Japan).
- Hoshino, K. (2019c). Comments for students' poster presentations (Social Epidemiology, Dr. Winston Tseng's Class in the 2019 Spring Semester, Department of Health Sciences, The California State University at East Bay, Hayward, CA).
- Hoshino, K. (2019d). Comments for students' paper presentations (Asian American Community and Health, Dr. Winston Tseng's Class in the 2019 Fall Semester, Department of Ethnic Studies, The University of California at Berkeley, Berkeley, CA).
- Hoshino, K. (2021a). Transnational caregiving for older adults and caregivers' wellness in Japanese Americans in the United States and Japanese Chinese in China (Japanese Taiwanese in Taiwan (The 2021 UC Berkeley International Symposium on Transnational Family Caregiving and Caregivers' Wellness in the United States, Mexico, Taiwan, and Japan, The University of California at Berkeley, Berkeley, CA).
- Hoshino, K. (2021b). Comments for students' paper presentations (Asian American Community and Health, Dr. Winston Tseng's Class in the 2021 Fall Semester, Department of Ethnic Studies, The University of California at Berkeley, Berkeley, CA).
- Hoshino, K., Tseng, W. et al. (2021c). Transnational caregiving for older adults and caregivers' wellness in Japanese Americans in the United States due to the pandemic: Poster accepted at the 74 th Annual Scientific Meeting of the Gerontological Society of America (Phoenix, AZ).
- Hoshino, K., Tseng, W. et al. (2021d). Transnational caregiving for older adults and caregivers' wellness in Japanese Americans during the pandemic. *Innovation in Aging*, 5, Issue Supplement, 1, 985-986, <https://doi.org/10.1093/geroni/igab046.3542>
- Hoshino, K. (2022a). Transnational professional caregiving for older Japanese Americans in the United States and older Japanese in Japan (The 2022 UC Berkeley International Symposium on Transnational Professional Caregiving and Care Workers' Wellness in

the United States, Mexico, Taiwan, and Japan, The University of California at Berkeley, Berkeley, CA).

Hoshino, K. (2022b). Comments for students' paper presentations (Asian American Community and Health, Dr. Winston Tseng's Class in the 2022 Fall Semester, Department of Ethnic Studies, The University of California at Berkeley, Berkeley, CA).

Hoshino, K. (2024a). Transnational caregiving and end of life in older Japanese Americans in the United States and Japan, in collaboration with AI and Robots, (The 2023 Japanese Fiscal Year UC Berkeley International Symposium on Transnational Caregiving and End of Life from Global Perspectives, The University of California at Berkeley, Berkeley, CA).

Hoshino, K. (2024b). Transnational family caregiving and caregivers' wellness in Japanese Americans in the United States and in Japanese Taiwanese in Taiwan, *Bulletin of Asia-Pacific Studies, Special Edition*, 26 (2), 21-30.

Hoshino, K. (2024c). Asian transnational professional caregiving for older Japanese Americans in the United States and Japanese older adults in Japan, *Bulletin of Asia-Pacific Studies, Special Edition*, 26 (2), 59-69.

Hoshino, K., & Hayashi, T. (2024). Introduction, *Bulletin of Asia-Pacific Studies, Special Edition*, 26(2), 1-3.

Hoshino, K. (2025a). Transnational caregiving and end-of-life in older Japanese Americans in the United States and Japan, in collaboration with artificial intelligence (AI) and robots, *Bulletin of Asia-Pacific Studies*, 27(2) (in press).

Hoshino, K. (2025b). Transdisciplinary and transcultural support for immigrants, with artificial intelligence (AI) and robots, *Bulletin of Asia-Pacific Studies*, 27(2) (in press).

Hoshino, K. (2025c). Introduction, *Bulletin of Asia-Pacific Studies*, 27(2) (in press).

Hoshino, K. (2025d). Transnational caregiving for older adults and end-of-life in North America, In K. Hoshino (Ed.) *Transnational caregiving and end-of-life from global perspectives*. Osaka: Osaka University Press (in press).

Hoshino, K. (2025e). Transnational caregiving for older adults and end-of-life in Latin America, In K. Hoshino (Ed.) *Transnational caregiving and end-of-life from global perspectives*. Osaka: Osaka University Press (in press).

Hoshino, K. (2025f). Transnational caregiving for older adults and end-of-life in Europe, In K. Hoshino (Ed.) *Transnational caregiving and end-of-life from global perspectives*. Osaka: Osaka University Press (in press).

Hoshino, K. (2025g). Transnational caregiving for older adults and end-of-life in Asia, In K. Hoshino (Ed.) *Transnational caregiving and end-of-life from global perspectives*. Osaka: Osaka University Press (in press).

Hoshino, K. (2025h). Transnational caregiving for older adults and end-of-life in Oceania, In K. Hoshino (Ed.) *Transnational caregiving and end-of-life from global perspectives*. Osaka: Osaka University Press (in press).

Hoshino, K. (2025i). Transnational caregiving for older adults and end-of-life in Africa, In K. Hoshino (Ed.) *Transnational caregiving and end-of-life from global perspectives*. Osaka: Osaka University Press (in press).

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 8件/うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 Kazumi Hoshino, Winston Tseng	4. 巻 5(1)
2. 論文標題 Transnational caregiving for older adults and caregivers' wellness in Japanese Americans during the pandemic.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Innovation in Aging, Issue Supplement	6. 最初と最後の頁 985-986
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/geroni/igab046.3542	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Kazumi Hoshino	4. 巻 10
2. 論文標題 Multidisciplinary and Multicultural Support Model for Immigrants on Legal Issues	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Compilation and Documentation on Refugees and Migrants Quarterly	6. 最初と最後の頁 6-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Kazumi Hoshino	4. 巻 26(2)
2. 論文標題 Transnational family caregiving and caregivers' wellness in Japanese Americans in the United States and in Japanese Taiwanese in Taiwan	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Bulletin of Asia-Pacific Studies	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32312/transasiapacific.26.2_21	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Kazumi Hoshino	4. 巻 26(2)
2. 論文標題 Asian transnational professional caregiving for older Japanese Americans in the United States and Japanese older adults in Japan	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Bulletin of Asia-Pacific Studies	6. 最初と最後の頁 59-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32312/transasiapacific.26.2_61	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazumi Hoshino, Takaya Hayashi	4. 巻 26(2)
2. 論文標題 Introduction	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Bulletin of Asia-Pacific Studies	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32312/transasiapacific.26.2_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazumi Hoshino	4. 巻 27(2)
2. 論文標題 Transnational caregiving and end-of-life in older Japanese Americans in the United States and Japan, in collaboration with artificial intelligence (AI) and robot	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Bulletin of Asia-Pacific Studies	6. 最初と最後の頁 10-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazumi Hoshino	4. 巻 27(2)
2. 論文標題 Transdisciplinary and transcultural support for immigrants, with artificial intelligence (AI) and robots	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Bulletin of Asia-Pacific Studies	6. 最初と最後の頁 21-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazumi Hoshino	4. 巻 27(2)
2. 論文標題 Introduction	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Bulletin of Asia-Pacific Studies	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 10件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 Kazumi Hoshino, Winston Tseng, W. et al.
2. 発表標題 Transnational caregiving for older adults and caregivers' wellness in Japanese Americans during the pandemic.
3. 学会等名 The 74th Annual Scientific Meeting of the Gerontological Society of America (Phoenix, AZ) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazumi Hoshino
2. 発表標題 Transnational caregiving for older adults and caregivers' wellness in Japanese Americans in the United States and Japanese Chinese in China (Japanese Taiwanese in Taiwan)
3. 学会等名 The 2021 UC Berkeley International Symposium on Transnational Caregiving and Caregivers' Wellness in the United States, Mexico, China (Taiwan), and Japan (Berkeley, CA). (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazumi Hoshino
2. 発表標題 Comments for students' paper presentations.
3. 学会等名 Asian American Community and Health, Dr. Winston Tseng's Class in the 2021 Fall Semester, Department of Ethnic Studies, The University of California at Berkeley (Berkeley, CA). (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazumi Hoshino
2. 発表標題 International caregiving for older adults and wellness among Japanese, Chinese, and Peruvian Americans in the United States
3. 学会等名 The 2019 International Symposium on International Caregiving and Wellness in the United States, and Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kazumi Hoshino
2 . 発表標題 International caregiving for older adults and wellness among Japanese, Chinese, and Peruvian Americans in the United States
3 . 学会等名 The 2019 UC Berkeley International Seminar on Global Aging School of Public Health, The University of California at Berkeley (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kazumi Hoshino
2 . 発表標題 Transnational caregiving for older adults and caregivers' wellness in Japanese Americans in the United States and Japanese Chinese in China (Japanese Taiwanese in Taiwan)
3 . 学会等名 The 2021 UC Berkeley International Symposium on Transnational Family Caregiving and Caregivers' Wellness in the United States, Mexico, Taiwan, and Japan (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Kazumi Hoshino
2 . 発表標題 Comments for students' poster presentations
3 . 学会等名 Social Epidemiology, Dr. Winston Tseng's Class in the 2019 Spring Semester, Department of Health Sciences, The California State University at East Bay (Hayward, CA) (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kazumi Hoshino
2 . 発表標題 Comments for students' paper presentations
3 . 学会等名 Asian American Community and Health, Dr. Winston Tseng's Class in the 2019 Fall Semester, Department of Ethnic Studies, The University of California at Berkeley (Berkeley, CA) (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazumi Hoshino
2. 発表標題 Transnational professional caregiving for older Japanese Americans in the United States and older Japanese in Japan
3. 学会等名 The 2022 UC Berkeley International Symposium on Transnational Professional Caregiving and Care Workers' Wellness in the United States, Mexico, Taiwan, and Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazumi Hoshino
2. 発表標題 Comments for students' paper presentations
3. 学会等名 Asian American Community and Health, Dr. Winston Tseng's Class in the 2022 Fall Semester, Department of Ethnic Studies, The University of California at Berkeley (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazumi Hoshino
2. 発表標題 Transnational caregiving and end-of-life in older Japanese Americans in the United States and Japan, in collaboration with AI and Robots
3. 学会等名 The 2023 Japanese Fiscal Year UC Berkeley International Symposium on Transnational Caregiving and End-of -Life from Global Perspectives (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 Kazumi Hoshino	4. 発行年 2025年
2. 出版社 Osaka University Press	5. 総ページ数 200
3. 書名 Transnational caregiving and end-of-life from global perspectives (in press)	

1. 著者名 Kazumi Hoshino	4. 発行年 2025年
2. 出版社 Osaka University Press	5. 総ページ数 200
3. 書名 Transnational caregiving for older adults and end-of-life in North America (in press)	

1. 著者名 Kazumi Hoshino	4. 発行年 2025年
2. 出版社 Osaka University Press	5. 総ページ数 200
3. 書名 Transnational caregiving for older adults and end-of-life in Latin America (in press)	

1. 著者名 Kazumi Hoshino	4. 発行年 2025年
2. 出版社 Osaka University Press	5. 総ページ数 200
3. 書名 Transnational caregiving for older adults and end-of-life in Europe (in press)	

1. 著者名 Kazumi Hoshino	4. 発行年 2025年
2. 出版社 Osaka University Press	5. 総ページ数 200
3. 書名 Transnational caregiving for older adults and end-of-life in Asia (in press)	

1. 著者名 Kazumi Hoshino	4. 発行年 2025年
2. 出版社 Osaka University Press	5. 総ページ数 200
3. 書名 Transnational caregiving for older adults and end-of-life in Oceania (in press)	

1. 著者名 Kazumi Hoshino	4. 発行年 2025年
2. 出版社 Osaka University Press	5. 総ページ数 200
3. 書名 Transnational caregiving for older adults and end-of-life in Africa (in press)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部の客員専門研究員としての研究活動に専念するため、海外の研究滞在等による中間再開制度を利用して、2022年4月22日から中断し、2023年11月1日から再開した。

<https://www.linkedin.com/in/kazumi-hoshino-169a4218b>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大橋 一友 (Ohashi Kazutomo) (30203897)	大阪大学・医学系研究科・教授 (14401)	研究分担者削除

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	神出 計 (Kamide Kei) (80393239)	大阪大学・医学系研究科・教授 (14401)	研究分担者削除

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ウインストン・セン (Winston Tseng)	カリフォルニア大学バークレー校・公衆衛生学部・教授	研究に対する専門的指導助言、国際シンポジウムでの発表者
研究協力者	アンドリュー・シャーロック (Andrew E. Scharlach)	カリフォルニア大学バークレー校・社会福祉学部・名誉教授	研究に対する専門的指導助言、国際シンポジウムでの指定討論者
研究協力者	リンダ・ニューハウザー (Linda Neuhauser)	カリフォルニア大学バークレー校・公衆衛生学部・臨床教授	国際シンポジウムでのモデレーター
研究協力者	マーロン・マウス (Marlon Maus)	カリフォルニア大学バークレー校・公衆衛生学部・教授	国際シンポジウムでの発表者
研究協力者	ロック・シウ (Lok Siu)	カリフォルニア大学バークレー校・エスニック・スタディーズ学科・副学長・教授	国際シンポジウムでの発表者

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計6件

国際研究集会 The 2021 UC Berkeley International Symposium on Transnational Caregiving and Caregivers' Wellness in the United States, Mexico, China (Taiwan), and Japan	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 The 2019 International Symposium on International Caregiving and Wellness in the United States, and Japan	開催年 2019年～2019年

国際研究集会 The 2019 UC Berkeley International Seminar on Global Aging School of Public Health, The University of California at Berkeley	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 The 2018 International Seminar on Intergenerational Support and Wellness in the United States, China, and Japan	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 The 2022 UC Berkeley International Symposium on Transnational Professional Caregiving and Care Workers' Wellness in the United States, Mexico, Taiwan, and Japan	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 The 2023 Japanese Fiscal Year UC Berkeley International Symposium on Transnational Caregiving and End-of-Life from Global Perspectives.	開催年 2024年～2024年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部			
中国	国立台湾大学公衆衛生学部			